

経済学の諸潮流とその評価の観点について
——塩沢由典氏の批判に答えて——

平井俊顕・野口 旭・川俣雅弘

目 次

「過去の理論」と「現代の理論」のあいだの知的緊張と交錯 …上智大学 平井俊顕…	3
はじめに ………………	3
1 編者(の一人)として ………………	3
2 「ヴィクセル・コネクション」 ………………	7
A 異同の度合い ………………	8
B スペクトラム ………………	11
C 付論：ヴィクセル覚書 ………………	13
3 「ケインズ革命」……………	15
経済学における「批判」と「擁護」 ……………… 専修大学 野口 旭…	18
1 経済学における二つの視点 ………………	18
2 なぜ「異端」が必要か ………………	21
3 なぜ「擁護」が必要か ………………	25
3-1 既存の理論の「擁護」のための消極的理由 ………………	25
3-2 既存の理論の「擁護」のための積極的理由 ………………	27
4 「批判」と「擁護」の両立は可能か ………………	33
原典に忠実で、形式的に完全な、過去の経済理論の解釈は可能か ……………法政大学 川俣雅弘…	39
はじめに ………………	39
1 経済学史研究の意義に関する考え方 ………………	40
1-1 根岸の考え方 ………………	40
1-2 筆者の考え方 ………………	41
1-3 経済学史のテーマ ………………	43
2 過去の経済理論の解釈について ………………	44
2-1 過去の理論の解釈 ………………	45
2-2 ガリアーニの価値理論の解釈 ………………	47
3 正統と異端の知的緊張について ………………	48
4 おわりに ………………	49
〔編集後記〕 ………………	52

まえおき

昨年（1995年）7月1日、2日の二日間、「新古典派を超えて」と題した公開研究会が、専修大学社会科学研究所の主催によってとりおこなわれた。その研究会の内容は、第1日目については『専修大学社会科学研究所月報』第387号（1995年9月）、第2日目については同『月報』第390号（1995年12月）にて、すでに公開されている。

この公開研究会の第1日目は、平井俊顕・野口旭編『経済学における正統と異端—クラシックからモダンへ—』（昭和堂、1995年）の合評会という形式をとるものであったが、その後、その公開研究会の討論者かつ報告者であった塩沢由典氏より、この研究会における「緊張関係をさらに掘り下げ、討論を先に進める手掛かりを提出する」ことを意図した、同書に対する詳細な書評が、本『月報』第396号（1996年6月）にて公表された。本稿は、その塩沢氏の書評に対するリジョインダーである。

塩沢氏はその書評において、理論的立場を異にする研究者の間での「死闘的対話」を継続していくことの必要性を強調されている。このリジョインダーは、この塩沢氏の呼びかけに応えることを意図している。

塩沢氏の批判は、同書各章のあらゆる主題におよんでいるが、本稿ではとりあえず、塩沢氏の主な批判の対象となっている、平井・野口・川俣の3人が、それぞれ独立した形で、その批判に答えるという課題を果たすことにした。これは同時に、同書における各執筆者の立場の相違、すなわち塩沢氏の要求する「たがいの間の緊張」をより明示化する試みでもある。

なお、同書の執筆者の一人である池尾愛子氏からは、同書評における塩沢氏の新古典派経済学理解については疑問を感じているが、それは同書における諸論点とは直接的な関係を持たず、また同書評においては池尾氏の執筆者への言及がないこともあり、今回のリジョインダーに関してはみあわせたいとの意思表示があったことを付記しておく。（野口旭・記）